

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

まほろば



2020.5
第225号

新人看護師を迎えて

4階病棟では新採用者3名と釜石病院の派遣から戻った1名の新しい仲間を迎えて今年度のスタートをきりました。当病棟は、小児科を中心とした病棟ですが、小児から90歳代までと幅広い患者様を看護しています。毎日、一生懸命に笑顔で先輩からいろいろ教わりながら確実に成長しているところです。

感染予防のため、面会制限が院内全体で行なわれています。面会に来られないご家族が安心できるよう、また、患者様が不安にならないように十分なコミュニケーションを図りながら、患者様に寄り添った看護を新採用者とともに、スタッフ全員でしていきたいと考えています。

4階病棟 看護師長：工藤 恵



先輩の腕を借りて採血の練習



看護記録について教わりました

先輩方が丁寧に指導してくれます 早く仕事が覚えられるように頑張ります



毎日、先輩たちにたくさん質問し、教えてもらいながら頑張っています

ひとつずつできることを増やしていきたいです

患者さんに寄り添った看護を行なっていけるように頑張ります

よろしくおねがいします

永年勤続表彰伝達式

令和2年4月27日（月）に独立行政法人国立病院機構の永年勤続表彰伝達式が執り行われました。本年の永年勤続表彰伝達式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、職員の列席を控えていただくなど、規模を縮小した中で行われました。

伝達式では、勤続30年以上勤務者2名、勤続20年以上勤務者4名が表彰され、当日出席された表彰者に藤病院長から表彰状と記念品が授与され、同席した職員より盛大な祝福を受けました。

藤病院長より、長年に亘り国立病院機構のために努力された事、苦勞された事に対する労いと、健康に留意し引き続き良い医療を提供いただきたいとの激励の祝辞が述べられました。また、受章者を代表して看護師の小舘えり子さんが、表彰されたことを励みとし、これまでの経験を生かし、より良い仕事ができるよう努力していきたいとの謝辞を述べ、表彰式を修了しました。

本来、私は、司会者として式の進行を行いますが、今回は、受章者として出席させていただきました。平成元年7月に採用されてから、数多くの上司・先輩・同僚に恵まれ、数多くの教をいただき、数多く支えていただき、仕事人としてだけでなく、人間としても成長させていただきました。30年の長きに亘り職務を遂行でき、また、今の自分があるのも、皆様のおかげだと思います。今後も人のつながりを大切にし、努力していきたいと思います。

庶務班長：越田 幸樹

なお、表彰者は、次のとおりです。

【 勤続30年以上 】

看護師	小舘	えり子
庶務班長	越田	幸樹

【 勤続20年以上 】

小児科部長	杉本	和彦
診療放射線技師	赤間	ひとみ
助産師	川村	恵
看護師	柴田	若菜



看護学校入学にあたって



今日、新型コロナウイルスが流行しており、入学時からマスク着用が必須のため看護師になるために勉学を共にする仲間、先輩方や先生方の顔すらも見られず、中々覚えることができない状況です。いつ収束を迎えるかわからない現在に、苛立ちでもなく、憤りでもなく、どのような言葉を当てはめれば良いのか、私にはわかりません。

医療が著しく進歩した現代で、人類を脅かす感染症の世界的大流行が起きているこの年に、私達は入学しました。この入学は、将来

振り返った時、私達にとって特別なものになっているのではないかと思います。

今まで経験したことのない世界的な危機的状況の中入学した私達は、人々の健康を保つための役割を求められていると考え、しっかり勉学していきます。

1学年：佐藤 百華



1月、2月と新型コロナウイルスという聞き慣れない感染症を耳にする機会が日ごとに増え、新年度のスタートを切った4月、ついには国から非常事態宣言が発令されました。

感染が青森県まで拡大していない2月、今後このような情勢になるとは想像もせず、私は長女の遠征同行に伴い、八戸市の蕪島神社を参拝してきました。

蕪島神社は、弁財天をまつり、商売繁盛、漁業安全の守り神として古くから信仰を集めてきました。また、ウミネコの繁殖地としても知られている蕪島神社の社務所には「フン（運）を授かった

際には拭き取らずにそのままお知らせ下さい」と掲示され、社務所で確認し、開運証明書というものを下さるそうです。残念ながら私は運は授けられませんでした。

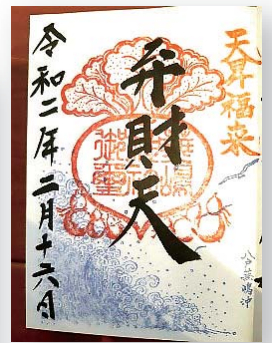
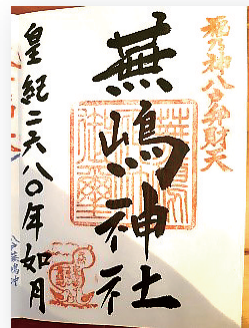
私が参拝した2月は、2015年11月5日に発生した火災により社殿が全焼したため、再建工事中で立入が制限されていましたが、現在は再建が終了し、一般参拝が可能となったそうです。

受診・入院されている患者様・ご家族、地域の皆様にとっても、この情勢がいち早く終息に向かい、当たり前前の日常を取り戻せるよう、改めて願います。

医療安全管理係長：白取 彩香



当たり前の日常が戻った頃、再度参拝したいものです・・・



研修医便り

初めまして。研修医1年目のトップバッターを務めさせていただく、米田真子と申します。私は“米田”と書いて“まいた”と呼びます。津軽ではなかなか馴染みのない苗字だと思いますが、私の地元である十和田市では“まいた”は意外と多く、実家の周りもほぼ全員“まいた”です。皆様に早く名前を覚えていただけるように、頑張っていきたいと思っております。

さて、国立病院での研修が始まり、はや1ヶ月が経ちました。このご時世様々なことが起きてしまい、最初は戸惑うこともありましたが、皆様の協力や熱心な教育のおかげで充実した日々を過ごすことができます。4・5月は呼吸器内科で田中先生のご指導をいただいております。内科的な知識だけでなく、胸腔穿刺や胸腔ドレーンなど多くの手技も教えていただいております。さらに、患者さんとの向き合い方や言葉遣いなど学ぶべきことがたくさんあり、自分はまだまだだと痛感する毎日です。また、医療事務さんには電子カルテの使い方を、看護師さんからは静脈採血や手技の手伝いなど、色々な場面で支えてもらい、その都度感謝の気持ちでいっぱいになります。多くの方に支えられているからこそ、早く皆様に頼ってもらえるような研修医になりたいと思っております。これからも、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医：米田 真子



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (令和2年5月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本 秀樹	熊本 秀樹	熊本 秀樹	熊本 秀樹	横田 貴志
呼吸器内科		中川 英之	山本 勝丸	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之
		山本 勝丸	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子
		下山 垂矢子	田中 佳人	田中 佳人	—	田中 佳人
		—	石岡 佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木 明彦	相原 智之	相原 智之	松木 明彦	相原 智之
		山口 公平	間山 恒	松木 明彦	間山 恒	山口 公平
		佐藤 年信	澤谷 学	佐藤 年信	貝塚 尚俊	佐藤 年信
		石黒 陽	石黒 陽	澤谷 学/貝塚尚俊	石黒 陽	石黒 陽
	午後 血液内科のみ	間山 恒	山口 公平	間山 恒	山口 公平	—
脳神経内科		廣畑 美枝	清野 祐輔	—	清野 祐輔	清野 祐輔
小児科		杉本 和彦	佐藤 工	敦賀 和志	佐藤 工	杉本 和彦
		敦賀 和志	橋本 礼佳	佐藤 啓	遅野井 香純	佐藤 啓
		遅野井 香純	藤岡 彩夏	藤岡 彩夏	橋本 礼佳	藤岡 彩夏
外科		柴田 滋	内田 知顕	柴田 滋	内田 知顕	三上 勝也
		—	堤 伸二	堤 伸二	堤 伸二	—
呼吸器外科		對馬敬夫/畑中 亮	對馬敬夫/畑中 亮	—	對馬敬夫/畑中 亮	對馬敬夫/畑中 亮
乳腺外科		小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅
整形外科	午前	陳 俊輔	秋元 博之	秋元 博之	陳 俊輔	秋元 博之
		岩崎 宏貴	中村 吉秀	岩崎 宏貴	中村 吉秀	中村 吉秀
		藤田 有紀	陳 俊輔	藤田 有紀	藤田 有紀	岩崎 宏貴
脳神経外科		—	—	木村 正英	—	—
皮膚科	午前	熊野 高行	熊野 高行	熊野 高行	熊野 高行	熊野 高行
		是川 あゆ美	是川 あゆ美	是川 あゆ美	是川 あゆ美	是川 あゆ美
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	松本 哲平	松本 哲平	松本 哲平	松本 哲平	松本 哲平
	午後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産婦人科		飯野 香理	當麻 絢子	追切 裕江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野 香理
		當麻 絢子	丹藤 伴江	丹藤 伴江		追切 裕江
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	—	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		西澤 尚徳	西澤 尚徳	(手術)	西澤 尚徳	西澤 尚徳
		松下 景	松下 景	—	長岐 孝彦	松下 景
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	—	—	川口英夫(午後)	—	川口英夫(午後)
女性専用外来		杉本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオペニオン		佐藤 温(※予約制/第2・第4木曜日14時~16時)				

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。
 ※ セカンドオペニオン外来は第2・第4木曜日の14時~16時です。



患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://hirosaki.hosp.go.jp/>

責任者：副院長 小田桐 弘毅